



SECTION 03_1 : WAN設定 (Serial)

特徴

- アップロードするデータをシリアル通信を使用して出力することができます。
- ブラウザ画面を使用すると簡単に設定できます。コマンド入力でも設定できます。

ブラウザ画面による設定

1-a. パソコンと接続 (USB)

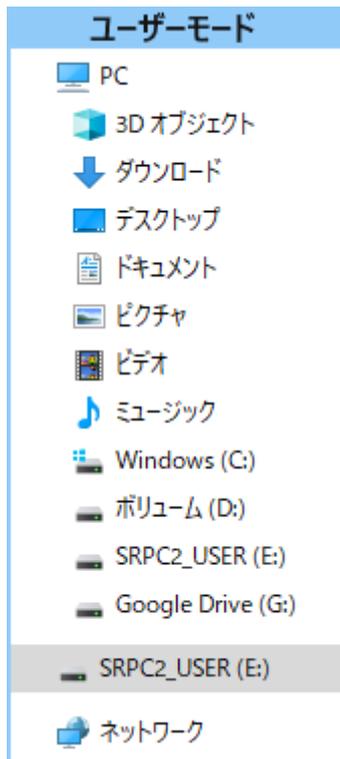


左写真のUSBコネクタ (USB Micro-B) と Windows パソコンを USB ケーブルで接続してください。下記のデバイスドライバが自動で起動します。電源は入れたままで構いません。

USB-CDC / USB-MSD / USB-RNDIS

Windows パソコン以外に接続される場合には、上記のデバイスドライバがインストールされていない場合があります。

パソコンに接続した時に、USBメモリを接続した時と同じようにフォルダ画面が表示されます。なお、お使いの環境によっては自動では表示されない場合もあります。

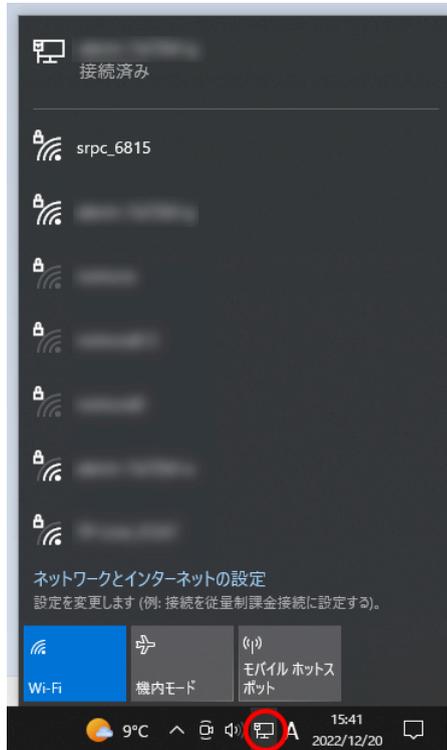


SRPC2 が E ドライブ (SRPC2_USER) として認識されている場合

このフォルダ画面は、今回は使用しないので閉じてください。

1-b. パソコンと接続 (WiFi)

srpc2のwifiは、電源投入後60分間だけ有効になっています (設定で変更可)。電源を投入してから60分以内に作業を完了する必要があります。

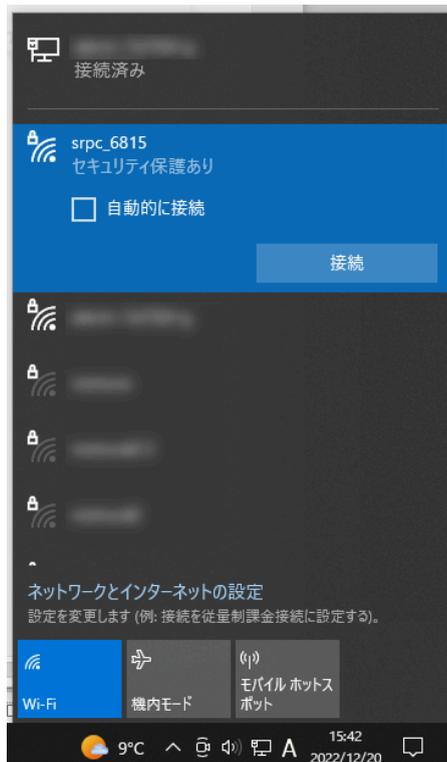


パソコン画面の右下の赤丸をクリックすると、現在の検知できているWiFiのアクセスポイントの一覧が表示されます。

その中に「srpc_XXXX」というアクセスポイントがあります。XXXXは、srpc2のHW IDになります。srpc2のHW IDは、製品情報のページで確認できます。

「srpc_XXXX」の項目をクリックすると、表示が下写真のように変化します。

なお、表示名は「NIF設定」で変更することができます。



「接続」ボタンを押すと、パスワードの入力を求められます。工場出荷時のパスワードは、「nomuraeng」になります。

「接続」の表示が「切断」になれば、WiFi接続が確立できたことになります。

なお、パスワードは「NIF設定」で変更することができます。

2. ブラウザを起動

USB接続

<http://10.130.11.1> 左のリンクをクリックしてください。自動でブラウザ画面が表示されます。表示されない場合、お使いのパソコンにインストールされているブラウザ (Edge、Chrome等) を起動し、URLの項目に<http://10.130.11.1>と入力してください。

10.130.11.1というアドレスは、変更することができます。もし、変更している場合には文章を置き換えてください。

WiFi接続

<http://10.130.22.1> 左のリンクをクリックしてください。自動でブラウザ画面が表示されます。表示されない場合、お使いのパソコンにインストールされているブラウザ (Edge、Chrome等) を起動し、URLの項目に<http://10.130.22.1>と入力してください。

10.130.22.1というアドレスは、変更することができます。もし、変更している場合には文章を置き換えてください。

SRPC2	
稼働状態	稼働状態
	現在の状況
基本設定	ソーラー電圧 1728 mV
	バッテリー電圧 3280 mV
アップロード	バッテリー充電電流 0 mA
	バッテリー放電電流 15 mA
スケジュール	消費電流 15 mA
	基板温度 27.00 °C
WAN設定	ローバッテリー電圧 3100 mV(温度補正後)
	ローバッテリー解除 3200 mV(温度補正後)
LAN設定	本日の状況
	バッテリー充電量 0 mAh
PAN設定	バッテリー放電量 0 mAh
	消費電流量 0 mAh
NIF設定	
IF設定	
製品情報	

上写真の画面が表示されることを確認してください。

3. WAN設定

左メニューの「WAN設定」をクリックすると、下写真の画面が表示されます。表示されない場合、製品情報で「WAN」の項目が「Serial」になっていることを確認してください。

SRPC2

稼働状態

基本設定

アップロード

スケジュール

WAN設定

LAN設定

PAN設定

NIF設定

IF設定

拡張機能

製品情報

WAN設定

シリアル通信

データタイプ なし JSON CSV

DQ あり なし

ポーレート 19200bps

ストップビット 1ビット 2ビット

パリティ なし 奇数(ODD) 偶数(EVEN)

ウォームアップ 100 ミリ秒

出力データ間 50 ミリ秒

更新のみ 保存&更新

各項目の設定が完了したら、一番下の「更新のみ」か「保存&更新」ボタンを押してください。「更新のみ」ボタンで設定した場合には、電源を切ると設定した内容が破棄されます。「保存&更新」ボタンで設定した場合には、電源を切っても設定した内容は破棄されずに、次回の電源オン時の初期値になります。

WAN設定

データタイプ

「なし」を設定すると、シリアル通信からの出力が停止します。「JSON」を設定すると、シリアル通信から出力されるデータフォーマットがJSONフォーマットになります。「CSV」を設定すると、シリアル通信から出力されるフォーマットがCSVフォーマットになります。

DQ

データタイプを「CSV」に設定している時に、表示される項目になります。「あり」に設定すると、文字データにダブルクォーテーション(“”)が付加されます。「なし」に設定すると、付加されません。

ボーレート

シリアル通信のボーレートを設定します。

ストップビット

シリアル通信のストップビットを設定します。

パリティ

シリアル通信のパリティを設定します。

ウォームアップ

シリアル通信が起動してから、データが出力されるまでの遅延時間を設定します。シリアル通信が起動するタイミングは、電源投入時またはローバッテリーからの復帰時になります。

出力データ間

シリアル通信からデータが出力された後、次のデータが出力されるまでの最小遅延時間を設定します。ここに設定された時間分、データ間に隙間が空くことになるので、データの区切りを判断する等の処理が行いやすくなります。

影響が出る設定

アップロードの「送信間隔」は「0」か「1以上」でしか判断されなくなります。

「0」を設定している場合は、対象のセンサデータがサンプリングされなくなります。「1以上」を設定している場合は、対象のセンサデータがシリアル通信から出力されるようになります。

シリアル通信から出力されるデータの間隔は、「サンプリング間隔」で設定した間隔になります。

変更履歴

2024/06/27 Rev1.0

新規作成